



大東西中学校だより

若葉の力 < 5月号 >

川崎市立大東西中学校
学校だより
令和5年度 第2号
令和5年5月11日発行

学校教育目標 『豊かな心を持ち、たくましい生徒 ～ 夢や希望をもつ生徒 ～ 』
○自ら考え、自ら学ぶ生徒 ○豊かな心を育む生徒 ○心身の健康に努める生徒

今、学び、身につけていることは、将来、美しい姿となって現れる。

校長 小金井 幸則

今年度になり、ひと月以上が経ちました。生徒たちにもいろいろな課題や悩みが出てくる頃です。現在、二者面談を行っており、担任が、じっくりと一人一人の話を聞いております。短い時間なので十分ではないところはまた改めて行います。そういった中で日々頑張っている生徒たちに、5月の全校朝会で以下の話をしました。

去年から今年にかけて、サッカーや野球の世界大会が行われました。その前は、オリンピックもありました。日本の選手達の活躍、素晴らしかったですね。とても感動を覚え、勇気ももらいました。また、プレー以外のことでうれしく感じたこともたくさんありました。

サッカーのワールドカップ。日本のサポーターたちは、試合の応援の後、応援席の清掃活動を行いました。ニュースなどで話題になりましたね。一方、日本の選手たちは、試合後、自分たちが使ったロッカールームをきれいに整え、置手紙で感謝の気持ちを残していました。

使ったところは、感謝の気持ちをこめてきれいにする。誰かに褒められたいとか、褒美や見返りが欲しいとかではなく、自分たちにとって当たり前のことを当たり前にしただけのこと。素晴らしい。誇りに思いますね。

野球のWBC。日本のピッチャーが相手国のバッターにボールをぶつけてしまったので、帽子を取って丁寧に謝罪しました。当てられた相手国のバッターは、最初は地面に倒れ、痛みでもがき苦しんでいましたが、しばらくして立ち上がり、「大丈夫ですよ。心配はいりませんよ。」と言わんばかりに全力で走ってみせました。選手だけではありません。日本の応援者とその隣に相手国の応援者がいて、お互いに自分の国の旗を振りながら応援し合っていました。日本の勝利で試合が終わった瞬間、日本の応援者は大はしゃぎをするのではなく、自分たちの旗を降ろして、隣で応援していた相手国の応援者とお互いの健闘を称え合うようにハグをしました。

このふたつのことは、国とか関係なく相手のことを思いやる気持ちがひしひしと伝わってきて、とてもじ〜んときました。これらのことも、今まで私たちが学び、身につけてきた「当たり前のこと」なのかもしれません。

私がこの学校の校長になって1年以上経ちますが、皆さんの活躍を見ていると同じように感じます。挨拶の様子、掃除の様子、友達への温かい言葉かけや思いやり。素晴らしいですね。

ところで、皆さんのことではありませんが、ひとつ残念に思っていることがあります。私が登校するときに、いつも国道16号から坂道を下ってくるのですが、その道のある決まった場所、道端に、時々、たばこの吸い殻がまとめて捨てられていることがあるのです。その近くには「ごみを捨てないで」という看板もあるのに。誰が、どういう気持ちでそんなことをするのだろうか、とても悲しい気持ちになります。

誰かが見ている、見ていないにかかわらず、やってよいこととよくないことは、わかっているはずですが、よくないとわかっていることは、やはりやってはいけません。よくないとわかっているのにやってしまうと、どんどん自分の気持ちがよくない方向に向かってしまいます。自分の気持ちにブレーキをかけないとはいけません。

皆さんが今まで身につけてきた「当たり前なことを当たり前でできる」力を大切に、「やってはいけません、例えやりたくてもやらない」という心のブレーキを磨いてほしいと思います。